

東京新聞謝罪に識者注文

MXテレビの沖縄報道

沖縄の米軍基地反対運動を扱った東京メトロポリタンテレビジョン(TOKY O MX)の番組に「事実関係の誤りがある」と批判が出た問題で、東京新聞(中日新聞東京本社)は2日朝刊で「責任と反省を深く感じている」とする異例の謝罪記事を掲載した。番組の司会を同社の長谷川幸洋・論説副主幹が務めていた。

識者からは「当事者の長谷川氏の認識が書いていない」と注文がついた。

記事は長谷川氏の上司、深田実論説主幹が執筆。番組を「事実に基づかない論

評が含まれ到底同意できるものではない」と批判し、長谷川氏の出演を「重く受け止め、対処する」とした。

MXの1月2日の番組「ニュース女子」は、反対運動を巡り差別的な表現や虚偽の内容があると問題になった。東京新聞は番組を取り上げたが、司会が長谷川氏であることに触れず批判されていた。

岡田憲治・専修大教授(政治学)は謝罪記事について「長谷川さんが申し訳なかったと自己批判しているか、そうでないかで記事の『対処』の意味合いが変

わる。本人が仮に悪くないと考えているなら、堂々と紙面で議論したらよい」と話す。

服部孝章・立教大名誉教授(メディア法)は「何がいけなかったのか書くべきなのに、本人の釈明もない。謝っただけでは検証になっていない」と手厳しい。

長谷川氏は保守派の論客として、リベラルな論調の東京新聞で異色な存在として知られる。服部名誉教授は「司会として事実をゆがめた内容に異を唱えなかった点は批判すべきだが、社論と違う点を問題にすべきではない」と指摘した。